



# 第73回 全日本中学校長会研究協議会 北海道(札幌)大会



期 日

令和4年 10月19日(水)・20日(木)・21日(金)

ホスト会場

ホテル ライフォート札幌

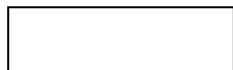
イランカラプテ 北の大地から

新たな学びを紡ぎ その先へ



Society5.0

GIGA



## 大会挨拶

第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会 大会会長  
全日本中学校長会

会長 平井 邦明



第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会は、新型コロナウイルス感染症の収束を願いながら、「集合形式」での開催を基本に御準備いただきました。しかしながら、令和4年になっても感染状況が改善しないため、「オンライン形式」での実施が現実的であると判断しました。

静岡大会に続いての「オンライン形式」での開催とはなりましたが、「校長の学びを止めない」という信念の下、北海道（札幌）大会が確実に実施できたことは意義があり、全日本中学校長会としても実にうれしく思います。本大会の開催にあたり、準備を進めてこられました、第73回研究協議会北海道（札幌）大会実行委員長であり、北海道中学校長会 会長の野崎均様、また、北海道中学校長会並びに札幌市中学校長会の皆様、事務局の皆様にご心より敬意を表するとともに、御支援・御指導を賜りました北海道並びに札幌市教育委員会をはじめ、多くの関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

さて、現時点においても新型コロナウイルス感染症は全国的に感染の拡大・縮小を繰り返し、学校の教育活動に影響を与え続けている状況にあります。この間、それぞれの学校では様々な感染予防対策を講じながら、「学びを止めない」という方針の下、教育活動を進めてきました。

中には、残念ながら中止せざるを得なかったり、従来とは異なる方法や規模を縮小したりしなくてはならなかった学校行事などもありましたが、失ったものばかりではなく、得るものも多くあったと思います。また、「GIGAスクール構想」の前倒しに混乱をしつつも、コロナ禍の中で「AIやSociety5.0の時代こそ、教師による対面指導や生徒の学び合いが重要であること」も再確認されました。

現在、文部科学省より示された「令和の日本型学校教育」を受け、全国の校長先生方が新たな学習指導要領の下での教育活動を進めながら、「個に応じた指導の充実」「個別最適な学びと協働的な学びの実現」などへの対応に尽力されていることと思います。これらの課題に対応するには、カリキュラム・マネジメント、外部人材などによる協力体制の確立など、管理職によるリーダーシップの発揮が一層求められます。また、「教員免許更新制度」が廃止となり、「新たな研修システム」へと移行されます。教師と対話をしながら計画的・効果的な研修の受講を奨励し、「令和の日本型学校教育」の推進に向けた原動力となる教師を育成することも管理職としての大きな役割となります。このように、新たな時代の教育を推進し、それを支える教師を育成するため、「高いところぞし」をもち、「共に」を合言葉に全国の会員の皆様と取組を進めていくことができると考えております。

また、加速化する生徒数の減少に伴う持続可能性の困難さなどから、「運動部活動の地域移行」に向けた改革の方向性がスポーツ庁より示されました。令和5年度からの3年間を「改革集中期間」とし、まずは「休日の運動部活動の段階的な地域移行」を基本として改革が始まります。全日本中学校長会としては、生徒たちが運動を行う機会の確保や教師の働き方改革の視点から、「運動部活動の地域移行」の実現に向けて、経済格差や地域格差によって生徒たちの活動に制限が生じることのないよう、様々な課題について丁寧に解決しながら前進させていく必要性を感じており、今後も全国の中学校の実態や意見を把握しながら改革の状況を注視してまいります。

最後になりますが、第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会の成果が、今後の学校経営に確実に結び付くとともに、我が国の中学校教育の更なる発展及び充実に繋がるものと信じております。そして、今回の北海道（札幌）大会の成果が次年度の大分大会に引き継がれますことと、全国の会員の皆様、お一人お一人の更なる御活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



## 大会挨拶

第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会実行委員長  
北海道中学校長会

会長 野崎 均



第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会は、前大会の静岡大会から成果を引き継ぎ、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」という研究協議会主題のもと開催いたします。

今大会開催に向けて令和2年に大会準備委員会を発足させ、当初札幌市97名の校長が中心となり準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症が依然収まりを見せないことから、安全で安心な大会の実現のためオンライン形式での開催といたしました。開催方法の決定については、緊急対策本部会議での協議や各県理事の皆様からの開催方法に関わる賛否回答のもと、5月の総会で御承認いただきました。御理解をいただき、本当に有難うございました。

さて、本大会のスローガンは「イランカラプテ 北の大地から 新たな学びを紡ぎ その先へ」といたしました。「イランカラプテ」は、御承知の通りアイヌ語です。諸説ありますが、この言葉には、「イ」＝「それ（あなた）」、「ラム」＝心、「カラプ」＝「触れる」、「テ」＝「させる」というところから、「あなたの心に触れさせてください」という解釈があります。今大会を通して全国の校長先生方が心を通わせ、新たな時代の教育について学び合っただけたらという願いを、この言葉に込めました。

また、今大会の全体を一枚の「織物」に例え、「紡ぐ」という言葉をスローガンに用いました。織物は、縦方向の経糸を先に張り、横方向の緯糸を編み込みます。強靱な経糸と美しく織りなす緯糸とが補完し合い、織物が生まれます。経糸がよれてしまったり、緯糸の色がばらばらになってしまったりすると、美しい織物にはなりません。

私たち実行委員会並びに運営委員会は経糸になります。「カリキュラム・マネジメント」の推進や「主体的・対話的で深い学び」の実現、道徳教育や健康教育、キャリア教育の充実などの8つの分科会を経糸ととらえ、しっかりと運営してまいります。参加される皆様には緯糸となり、各分科会で議論を深めていただきたいと思います。そして私たち校長が、新たな国の教育の方向性と理念を深く理解するとともに、その土台となる「チームとしての学校」の実現や教職員の資質・能力の向上、指導体制の整備・充実、さらには働き方改革としての業務見直し等の課題解決に向けて一層連携・協働し、研究協議主題並びに全日中新教育ビジョンの実現に迫っていきたいと思います。そして、本大会で、我が国の中学校教育の充実と発展に少しでも足跡を残すことができたとしたら、これほどうれしいことはありません。

今大会の準備は、令和元年の群馬大会に12名の校長が視察をしたところから始まります。そして、和歌山大会、静岡大会の実績を受け、本大会を迎えております。これまでの大会を通して積み上げてきた研究の成果を引き継ぎ、全国の中学校の校長先生方の英知と総意が結集され、その結果紡ぎあげた織物を、「その先」である大分大会へと確実につなげていくことができるように、実行委員会並びに運営委員会一同、全力で大会を運営してまいります。大会御参加の皆様方には御協力くださいますよう重ねてお願いいたします。

最後になりますが、本日を迎えるにあたり御支援と御協力を賜りました、文部科学省、北海道並びに札幌市教育委員会、全日本中学校長会や全国各地の校長会、教育関係機関の皆様から感謝と御礼を申し上げ、挨拶といたします。